

幸手市立上高野小学校 学力保障グランドデザイン

学校教育目標

総括目標「挑戦し続ける子」

- よく考える子
- 思いやりのある子
- 元気な子

学校研修課題

共に学び合い、高め合い、進んで問題解決する児童の育成
～言葉にこだわり、言葉を大切にしたい学びの充実を目指して～

本年度の重点

- 1 主体的に学び合い、高め合う授業の実現
- 2 「国語力」（問いをもち、言葉にこだわりながら、考えの違いや共通点を見出し、考えを深めて表現する力）の向上
- 3 ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの充実

目標達成の指針

- 1 全国学力・学習状況調査
- 2 埼玉県学力・学習状況調査 学力が伸びた児童の割合
- 3 幸手市統一学力調査 全国平均正答率
- 4 家庭学習 保護者の学校評価

「挑戦と創造」～主体的に考え、よりよく実践できる「自立した学習者」を育みます～

学校の共通行動



✿ 幸手スタンダード授業Vを意識した授業展開

スタンダードV with GIGAを意識し、ICTを効果的に取り入れながら、問いをもち、「個の学びー学び合いーまとめー振り返り」という一連の流れを意識した授業を共通実践できるようにする。

✿ 児童の「挑戦」を支え、励まし、目標達成まで見届ける指導

「幸手市確認テストA・B」や「漢字テスト」、「かけ算九九検定」などに合格できるよう、全員に「挑戦」させ、合格するまで励まし支援する。合格したら、校長からミニ賞状や特製缶バッジを贈呈する。これを通して、学びに向かう力を育てる。

✿ 協働的な学びの基盤となる「道徳教育」の充実
道徳科授業を要として、全教育活動を通じた道徳教育の充実を図り、学び合い、高め合える、支持的風土のある学級をつくる。

確かな授業実践



✿ 児童同士が互いに学び合う授業への転換

教師の言葉を削減し、児童が自ら問いをもち、学び合うことを重視した授業への転換を図る。それとおして、国語科を核として本校が捉える「国語力」を身に付けさせる。

✿ 国語科を中心とした語彙力向上の取組

国語科の授業の冒頭には、「漢字の学習」や「辞書引き」などの語彙力や言語能力を高める学習活動（ぐんぐんタイム）を单元的に位置付ける。また、中学年以上では、どの教科でも辞書を活用し、教科横断的に語彙力を高める。

✿ 教科担任制の導入

中学年以上において、教科担任制を実施し、教材研究や教具作りをさらに充実させ、カリキュラムマネジメントを行いながら、個別最適な学びと協働的な学びが豊かになる授業を展開する。

授業外での取組



✿ 読書活動の推進

図書館協力員や市立図書館等と連携し、国語科の学習内容に関連した本に進んで親しめるようにし、読書活動を推進することで、「国語力」の向上を目指す。また、「家読」も推進し、保護者と連携しながら家庭でも積極的に読書をするよう促す。

✿ 学力向上日課の実施

年3回、学力向上週間を設ける。その期間中、学力向上の時間を毎日1時間設定し、コバトン問題集やパワーアップシート等に取り組み、解説を行う。

✿ 学力向上タイムの設定

学力向上週間の昼休みの時間帯を「学力向上タイム」として位置付け、特に苦手としている分野・領域の問題演習に取り組む。その際、管理職・担任外教員もチームを組み、習熟度別指導を行い、組織的に下位の児童の底上げを図れるよう取り組む。

家庭・学校間連携



✿ 家庭学習強化週間の実施

各学期に実施。県学・全学に関連する類似問題や、前年度からの課題を克服するためのプリント等を家庭学習に取り入れる。保護者には、家庭学習の見届けや助言、振り返りの際のコメントをいただく。

✿ 一人一台端末の積極的な活用

学習ソフトを通して、週末を中心として一人一人に応じた課題を配信し、学びの個別化を実現し、家庭でも積極的にタブレットを活用した学習ができるようにする。

✿ 西中学校区の小・中連携強化

「読解力を高め、他者と対話しながらよりよく課題解決できる児童生徒」を学力向上面での西中校区の目指す児童生徒像とし、年数回、互いの学校の授業を参観し合い、9か年を見通した学力向上の取組について協議していく。